



## 電 田 復 耕

NPO あさひ 理事 吉田 愛一郎

耕作放棄地は全国に散在し、その総面積は滋賀県に匹敵する社会問題です。私はその農地にソーラーパネルを敷設し、農地を復興し、人々を呼び戻そうと考えています。その運動を電田復耕と呼んでいます。

もしその農地で発電ができれば、その発電量は東京電力の全発電料に匹敵し、原発はもちろんいらなくなることになります。



しかしそこには、農地と言う法律があり、農地では農業以外の事をしてはならない事になっているので、その農地がどんな荒地でも何十年かの間に、そこが森になっていても、農家はその土地を売ったり貸したり、さらには家を建てることも、駐車場にすることもできません。農家は跡継ぎがないことや、TPP でこのような放棄地はさらに増加すると、私は農水省に説き続けておりました。



農地が農地でなくなれば自分たちの省権も狭まってしまうので。

農地で別のことが行われるのが彼らにとっては死活問題なのです。

農家が幸せになることが、役人の不幸とは何とも不思議な国日本です。しかし、農家の幸せを阻害することも表立ってできない彼らは、しかたなく、本年の4月1日から、やっと農業を阻害しない限りソーラーパネルの敷設を許可する趣旨の通達が発布したのです。農業をしながらソーラー発電？ソーラーパネルの下の農業、、、そんなこと誰ができるのか？？？

見せかけの許可で農水省は私たちに無理難題を突きつけたかのようにも思いますが、政府に政策有れば、庶民には対策有りという中国の諺の通り、知恵を巡らす



賢者も日本にはいるのです。

パネルの下の農業をやったのは、あさひ福祉作業所です。施設の人々を末永く養わなければならない島理事長の祈りに神様が知恵をさずけてくださったのでしょ、なんとソーラーパネルの下で椎茸を栽培してしまったのです。

その椎茸のブランド名は月の笠です。肉が厚くあさひの金の卵と一緒にオムレツや卵焼き、親子丼に入れても最高です。

そんな快挙に学びたいと、有名なシンクタンクや他府県の農家がいくつも見学にやってくるようになりました。明野の農家さんはそれから学び、同じようなものを企画しています。素晴らしい椎茸や 美味しいブラックベリー、ブルーベリーがとれるでしょう。

日本は気温が上がり亜熱帯化しています。今年の勝沼では夏の高温で桃が落ちてしまいましたし、あれだけ太陽が好きなトウモロコシの実も固くなってしまいました。レタスや、白菜などの葉物野菜は真昼の直射日光にまっています。農家の



お年寄りも日陰がない農地で熱射病になって倒れてしまいました。ソーラーパネルをチェックのようにまだらにすることでそんな事故だって防げるのです。ソーラーで豊かな生活が保証されるので荒地に農家は帰農し、再び農業が復興されるのです。

葦崎の農協さんは葦崎だからニラを栽培するかなんてダジャレ農業も復耕しました。

暗い話題の多い日本の農家にも、知恵は笑い声と復耕のクワの音、を響かせます。そんな賑わいを味わいながら私は死ぬまで田園を歩き回りたい。





## 韓国巡礼の旅

NPOあさひ 理事長 島 武代

カトリック教会の企画で、11月1日～4日までよしこさん、裕子さん、恵美子さん、由美さんと共に、韓国巡礼の旅に参加いたしました羽田空港発が、早朝のため東京で一泊、4泊5日のながい旅となりました

私も彼女等も初めての海外旅行でして、期待と不安で一杯でしたが、蕪崎教会の岩永さん、清水恵子さんご夫妻、小池さん、掛川教会の西勝さん、同行のみなさんに支えられ、委神父様、市岡神父様のさりげない言葉かけに心が和みまして、旅を終えましたこと、心より感謝いたします



明洞（ミョンドン）大聖堂

韓国は、日本の隣国、それでいて友好面では遠い国になっています  
戦時には朝鮮を侵略し、また日本へ連行し、凄まじい労働をさせ、今なお慰安婦問題も解決せず、いろいろとあります



李神父様を囲んで

韓国の最初の本堂、カトリックの象徴である明洞大教会で李神父様、市岡神父様のミサに授かりました。その後、李神父様のお説教がありました、聖堂いっぱい（千人以上だと思います）信者さんのいつまでも続く拍手、韓国語でのお話ですので、私には少しもわかりませんでした

お説教の内容は、2、3行で表しますと、日本と韓国が冷え切った状態ですが、日韓

の信者さんが手を取り合って平和的に解決し、それを世界に広めていきましょう、、、とのことです、長かったお説教の全文を、いつか皆さんと分かち合いたいと思います

明洞大教会は1980年代近、現代史の激動期に韓国社会の人権向上および民主化の聖地としての役割を果たし、現在では祈って宣教する共同体とし 巡礼の旅は心にズシッと重くのしかかり辛い旅でした

1800年代、キリスト者が迫害を受け首切りの処刑を受け、何万人もの司祭、信者が命を捧げました。4箇所の殉教聖地、、、西小門(ソソムン)聖地、沙南基(セナムト)、ダンコゲ殉教聖地、切頭山(チョルトウサン)殉教記念聖堂をめぐり、ミサを捧げました。私は祈りを捧げることを、改めて考えてみました、、、多くの殉教者の信仰を思い、自分自身の生き方はどうか、、、うわべだけでなく生きていかねば、、、と思いました。

楽しいこともありました。

韓国伝統舞踊の観劇、国立民族博物館、韓国民族村の見学、たくさんの韓国料理に舌づつみを打ち、韓牛の焼肉とキムチの美味しかったこと、一晩は彼女等と体を温めたくてホテルのサウナに行きました(温泉がありません)、喜喜として出かけましたが、ドアを開けたとたん4人とも泣き声をあげてしまい、併設されているお風呂にはいって、満足しました。



李神父様の故郷、法院里聖堂、子供たちが多勢いました。

ペールは司祭の道に進みました、、、アンペールが朝鮮に任命されたとき、生きて帰れない地、殉教する地とされていましたので、グノーはアンペールのため毎日マリア様に祈りました。

ある日曜日、とうとうアンペール司教、朝鮮にて殉教との知らせがきました。

グノーはマリア像の前で泣きながらロザリオを唱えることしかできませんでした。

グノーは、アンペール司教を偲び称えながら



国立民族博物館

帰国後、知人からアベマリアを作曲したグノーと韓国で若くして殉教したアンペール司教が友人であったことを知らされました。

1830年代フランスでパリミッション会が運営する学校で同級生であり、グノーは音楽の道を、アン

ペールは司祭の道に進みました、、、アンペールが朝鮮に任命されたとき、生きて帰れない地、殉教する地とされていましたので、グノーはアンペールのため毎日マリア様に祈りました。



歌舞団の方と一緒に

アベマリアを作曲しました。アンペール司教の聖骸は、明洞大教会の地下聖堂に4人の殉教者とともに安置されております

長い5日間でした 最初私一人で彼女等と行くつもりでした（あさひでの日常生活を見ていて、大丈夫だと思えたのです）ところが、知らない外国へ行くこと、飛行機に乗ること、5日間と長い日程をこなすこと彼女等にとりまして精神的に大変だったのでしょ、、、、夜眠れないこと、思いどおりにならず、感情をあらわにすること、自分に注目してもらいたい等々、とにかく一人一人に皆さんが手をつなぎ関わって下さいました皆様心より感謝いたします

皆様に支えられての旅、彼女等にもあとあとまで感謝の気持ちが満ちていることでしょう 私にとりまして皆様に感謝の気持ちでいっぱいです そして彼女等と分かち合えたこと感謝です



西勝さんと一緒に笑顔のよし子さん



裕子さん、清水恵子さん、恵美子さん



板門店にて、  
この様な笑顔の時もありました

## けんちゃんと私の引き売り

あさひ福祉作業所 引き売り担当 殿谷 悦子



ある日の事。「車の運転、平気？」「まあ、平気だよ。」

この会話で、ぶーこっこと出会いました。何をするかも知らず車に乗り、甲府方面へ！この時、私は・・・これはまずいなあ、昼までに帰れないな～、旦那に何も言ってないよ～。ご飯どうしょ～・・・などと思っていたのです。お客様の家々をまわり気がつけば3時過。(主人の怒った顔が目に浮かびました)と、「運転、

合格です。」前任者の一言。「来週からお願いします。」私は、自分の立場が分からず引き受けることになってしまったのです。

初めての道、初めての仕事、この先何をどうすれば良いのかわからない私に(その日だけの手伝いぐらいにと考えていて、覚える気もわいていませんでした)武代さんの一言！「けんちゃんが全部わかっているから大丈夫。」本当！！その通り、けんちゃん大明神の日々の始まりでした。一筋道を曲がりそこねては迷路のように感じる細道を右へ、左へ、けんちゃんの指示でくり抜けること数回、いやそれ以上かも。すごいネーこの記憶力、何でもわかっているのにしらんぷりしてるんだー(私の心の中)

もっと大弱りな事に人の名前がなかなか頭に住みついてくれない私に「次は何さん」「次は何さん」と案内してくれる“けんちゃん”「ここは卵いくつ、ケーキも」と、言ってくれるので大助かり。

私の仕事はと言えば、運転に気をつけ、大声で歌合戦をすることでした。

まわりの車の方々から、げげんな顔をされ(私は冷暖房が苦手なでいたい窓を明けっ放しです)、不安を感じた人達は、急いで走り去っていかれました。

私達はまるで漫才コンビでした。

そんな時の私は大人(おとな)をやめています。けんちゃんという我がままな自分を思う存分味わえて体の底からリラックスしていました。知らず知らずのうちにストレス発散！なんと幸せな時間だった事でしょうー

私が慣れてくると同時に、あさひの皆がいろいろと手伝ってくれ始めました。卵のパック詰め、椎茸の用意、荷物の置き場所、本当にやさしさにあふれた時間ばかり



りです。それなのに時間に追われている私は、「ありがとう」もちゃんと言えない日が多々あります、この場で「いつも、やさしくしてくれて手伝ってくれてありがとう！！」と言わせて下さい。

さて、私はかなりドジをします。予約品の置き忘れ、伝票の書きまちがい、こんな時私は知らず知らずタメ息をつきます。けんちゃんはずぐ気がついて「にこっ」と笑いかけてくれます。こんな優しさにあふれた笑顔に出合った事の無い私はこれですぐ元気をとりもどし「ま、いいか！来週だ」と吹き飛ばします。(皆様ご迷惑をかけたままでゴメンナサイ)こんな調子で引き売りをやらせてもらっていて申し訳ありません。

長年やらせてもらっていましたが運転も少しずつヘタになり、もともと以上にもっともっと忘れっぽくなり潮時を感じていましたそして、ここらで一休みさせてもらう事になりました。この後は時間のある時に卵ふきのお手伝いなどさせてもらって皆様の顔をのぞきに行かせてください。これからもヨロシクお願いします。





## ヒエと武代さんの戦いのお米

### あさひ福祉作業所のお米作り

作業指導員 馬場 春夫

あさひ福祉作業所で働くようになって1年9ヶ月、お米作りを2回体験した。無農薬のおこめづくりだ。私は、岩手の県北の貧乏農家で生まれ育ったので、父母や兄、姉、集落の米作りは見て育ったが、18歳以降はサラリーマン生活で、一度も農作業をしたことがない。去年、初めてトラクターであさひから田んぼに行くときの緊張と、昂揚感は忘れられない。まだ新米（しんまい）なので、大事な作業は任せてもらえないが、教わりながら土おこし、苗育て、田植え、除草、稲刈り、はせかけ、脱穀をした。

去年、田植えのあと2週間位で写真のような光景になった。岩手でも、その後の40数年でも見た事の無い光景だが、初年兵の私には、状況が理解できなかった。

この、田植えをした条がわからなくなっているのが、宿敵「ひえ」だったのである。写っている除草器で、2、3回除草し、手でも何回も除草した。苗が育ちお盆の頃。あれだけ対策したのに一枚の田んぼのひえが稲に覆い被さるように育ってしまっているのに気づいた。農業委員をなさっているかたに相談し、草刈機で稲より高いひえの穂を刈りとばす。普段足元の高さで使う草刈機を、胸の高さで扱うのはかなりつらい。

ひえは強い。穂を切られても、下からまた新しい穂が育つ。根っこから引き抜かなければならないのだ。この作業は当然、手作業。しかも、素人や新米作業員ではひえか稲かの判別がつかない。武代さんと、市村さんしか出来ない。衣笠春子さんにもお手伝いしていただき、終わりの無いたたかいが続いた。ひえの影響で、収穫量もかなり落ちた。武代さんは、それ以前の数年はひえがほとんど出なかったので油断がと、いうが、他の経験者から原因らしきものはと聞きまわったがはっきりとした分析、指摘はえられなかった。





あさひ福祉作業所は、無農薬農法で共感する方々と協力して稲作りをしている。その収穫後の反省会でも、ひえ対策が中心の話題になった。合鴨農法をしている方に勉強にもいった。今年は、去年の二の舞は絶対してはいけないと、農業委員の小橋さんが実践しているチェーン除草をすることにした。写真の道具を作り、田植え後2、5週間に、2、3回、田んぼの中を引っ張って歩く。植えて

間もない苗は倒れる。が、宿敵ひえの苗が、ひょろひょろした白い根っこを見せて、いっばいついてくる。除草機による草取りもその後の成長に合わせて2、3回実施。手による除草も平行して続く。除草機による除草は、稲の成長を見極めながらしないと、逆効果になる事も小橋さんから教わった。これだけ手をうっても宿敵ひえは完全成敗とはならない。今年も武代さん、市村さんの熟練組みの手作業が繰り返された。鈴木美智子さんにもお力を貸していただいた。「去年に比べりゃ楽よ」といいながら、武代さんが、力あまって田んぼに転んだと思われる跡がそこそこにある。そして今年の収穫。去年より増収。

このお米が、あさひテレサホームの一年間の主食になる。去年はひえの影響で一年間をまかなえなかった。さて、今年はどうなるだろうか。いただいた新米を、精米して頂いた。おいしい。ご協力いただいた、米の会、雲柱社、小橋さん、鈴木さん、多くの方に感謝、感謝、感謝。



## あさひ交流会へのお誘い

◎日時 平成25年12月14日 AM10:00～PM2:00

◎場所 あさひテレサホーム

あさひ福祉作業所

◎参加費 300円



◎物販等フリーマーケットも同時開催致します。

☆皆様の日頃から研鑽されております特技や趣味等手作り品のお披露目の場としてもご利用いただきながら展示即売もいたします、出店者の募集もしておりますので別途詳細等含めてご連絡いただければご相談させていただきたいと存じます。(売上の10%を頂戴いたします。)

☆尚、会場ではもちつきにともない、のし餅の予約販売も行います。

同封のハガキに必要事項を明記の上、切手を貼らずにご投函ください。原則として参加者のみ、お一人様2升までの販売とさせていただきます。また会場にて豆餅、くるみ餅、ゆず餅等の販売もしておりますのでご利用ください。

☆布草履（守屋 勝）の実演&販売。

## 退任及び新任スタッフのご案内。



### 成田 昌代さん (9月退任)

体調不良で退職いたしました。最近徐々に回復し、体調の良い時はあさひで卵ふきの応援や、彼らの話し相手に来て下さり、テレサの合奏団でフルートを吹いて下さっています。1日も早い回復をあさひ一同願っています。



### 馬場 真理子さん (10月新任)

前職は正看護師で活躍。その豊富な知識と経験を活かして入所者の高齢化に対する健康管理にも力を発揮していただければ幸いです。

作業指導員 馬場春夫の奥様です。



### 中森 翠 (みどり) さん (11月新任)

ワーキングホリデー (オーストラリア) ・ 青年海外協力隊 (グアテマラ) 参加・・・とあさひで最も若いスタッフです。現在自然農など勉強中。



特定非営利活動法人あさひ      あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

TEL 0551-47-3950      FAX 0551-47-4414      [asahi-fukushi@cd.wakwak.com](mailto:asahi-fukushi@cd.wakwak.com)

賛助会費・寄付金等      ★郵便局振込★ 00220-1- 98254

編集者：中山 正博